

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104899		
法人名	株式会社 ピアーズ		
事業所名	グループホームシルバーピアーズ愛(2F)		
所在地	岡山市南区並木町2丁目27番43号		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=tru&JigvosvoCd=3370104899-00&PrefCd=33&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=tru&JigvosvoCd=3370104899-00&PrefCd=33&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成24年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の一つである「笑顔とチームワーク」をモットーに明るい施設づくりに努めています。入居している方々に常に寄り添い、家族の次に近い関係が築けるように努力しています。「楽しい我が家」と呼んでいただけるように、スタッフは明るく笑顔で接することで、入居している方々も、自然と明るい気持ちになっていただければと考えています。又、口腔ケアにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員が理念の「笑顔とチームワーク」をモットーに明るく生き活きと働いており、内・外の連携もスムーズに出来ている。介護記録など時間帯や内容で色分けをして記入したり、書類を分かりやすいように変更するなど、新たな情報を吸収し、失敗を恐れず前向きにチャレンジをしている。  
美味しく食事ができるように口腔ケアに力を入れている。週1回、歯科衛生士の訪問があり、その指導の下、利用者一人一人に合った歯ブラシ～硬、軟、歯間、義歯用、舌用等を選択している。部分に応じて3種類の歯ブラシを使用している方もおられる。  
地域との付き合いも大切にしており、職員の提案により近くの遊歩道の清掃活動等も始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に、スタッフが理念を唱和し実践に繋げている。	毎朝、3ユニット合同で申し送りを行っており、理念を唱和している。「笑顔とチームワーク」「あきらめから希望への介護サービス」「限りなきプラス思考」3つの理念をモットーに失敗をおそれず、次のステップに向け積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、毎月2回近隣の遊歩道の清掃をしている。	職員からの提案により、近くの遊歩道の清掃活動を行っている。職員が中心となっているが、気候がいい時には利用者も一緒に行くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場を利用して、地域貢献として実践できることを検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内で行った行事内容やスタッフが参加した内部・外部研修の内容等報告。家族から、地域から見た目で意見を伺い、施設への理解と、より充実したサービスを提供できるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催。参加者は家族、町内会、婦人会、地域包括支援センター、かとう内科のスタッフなどである。事業所の活動報告を行い、地域の行事などの情報を得たり、意見交換を行い、運営に活かしている。	家族へ案内等出しているが、参加が少ない状況である。運営推進会議に出席して頂き、意見交換が出来る事でお互いにメリットがある事を重ねて説明し、今後も案内を行い、参加の呼びかけを続けて下さい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に参加して頂き、事業所での取り組みについて伝えている。	生活保護受給者の入居も受け入れており、福祉課の担当が訪問時には状況を報告している。また、部屋の空き状況について随時報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会主催で勉強会を開催。具体的な身体拘束を含め、事例等を使用し身体拘束廃止に向けての取り組み方などを勉強している。	身体拘束委員会が主体となり勉強会を行っている。内容は事例を取り上げ、とても具体的で分かりやすい。参加できない人は資料を読み、レポート提出を行うなど徹底して取り組んでいる。玄関の施錠をしていないため、離施設の可能性がある利用者の写真を1階のヘルパーステーションの職員にお知らせするなどリスクを軽減するため日頃から連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っている身体拘束委員会主催の勉強会に虐待防止を取り入れ、スタッフに周知してもらい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や自立支援事業について必要に応じて対応している。 制度について、学ぶ機会を検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、事前に契約書・重要事項説明書等お渡しし、内容が十分読める環境をつくっている。また、その内容について再度説明する時間をつくり、不安や疑問点など伺い、理解・納得を図っている。 解約、改定の際は文章または口頭にて連絡を行い、同意書にて確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等への年に一度の満足度アンケートを実施し、利用者の意見を運営に反映させている。また、2ヶ月に1度開催している運営推進会議には、全入居者の家族に持ち回りで案内し、参加を呼びかけている。	面会時に職員が声をかけ、近況を報告し意見や希望を伺っている。面会が少ない方や変化があったときにはその都度電話にて連絡を行っている。昨年からは『愛通信』を発行し、家族に利用者の生活が分かるよう取り組んでいる。	忙しい業務の中、『愛通信』を発刊。写真が盛りだくさんで日頃の生活が感じ取れます。今後も楽しみにしています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングの際は、スタッフの意見や考えを遠慮せず引き出せるように働きかけている。また、年に2回管理者と一対一で話が出るよう個人面接を実施している。	月1回のカンファレンスやユニット会議が話し合いの場となっている。普段の業務の中で管理者から職員へ声をかけ、意見など聞くよう努めると同時に年2回、個人面談も実施している。定年を70歳とし、長く楽しく働くことができる環境作りに努めている。	職員は理念でもある『限りなきプラス思考』を日頃から実践しており、明るく前向きである。話しを聞く中で自分たちに何かできることはないかと利用者に対し真摯に向き合っている姿を感じた。今後もプラス思考で頑張りたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断を実施し、スタッフの健康維持に役立てている。勤務形態は、可能な限りそえる様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設立し、委員会メンバーを中心に外部研修の案内、参加の呼びかけ等を行っている。また、内部研修に際しても研修委員会を中心に身体拘束廃止・感染症対策・安全管理・接遇と毎月勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や交流等により、充実したサービスが行えるよう検討していく。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者について相談のあったときにはその内容について記録を残し、その後も状況を確認している。入所前には事前面接を行い本人について理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取り、話を伺いながら相談に応じるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のあったときには、相談者の状況を確認し、必要ならば他のサービス利用へ対応を考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションをはかり、本人の思いや希望を汲むように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者が交流を気兼ねなく出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の体験や経験について話を聞く機会を持ち、家族との外泊・外出についても支援している。	家族の協力により外出や外泊を行うときには、事前に利用者の状態を説明し、家族も安心して出かけられるよう配慮している。必要時には介護タクシーなどの紹介も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮した席を考えたり入浴・洗面・トイレなどでトラブルのないよう順番を考えたりしている。又、洗濯物を協力し合って、畳んでくれている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、面会の希望があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案前に各個人と面談する時間を設け、本人の希望や意向に聞いている。その内容をケアプラン立案時に反映させている。	必ず本人と1対1で向き合って話をする時間を持つことで、そのときの本人の気持ちや希望を把握するよう努めている。本人の希望に加え、家族の意見や職員から見た状況を加え、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ、本人や家族から今までの暮らしぶりを把握する機会を持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで入居者の情報を共有し、日々の様子を記録して把握している。連絡ノートを作り、細かい情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、本人の状態に合わせ、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。	カンファレンスにて職員間で意見交換を行い、プラン作成を行っている。また、日々の支援経過記録の中でケアプランに関わる事柄を青色で記入しており、プランを変更するときには青字で記入された内容を改めて見直すようにしている。	ケアプランに関わる事を青字で記入、これはケアプランの内容を職員一人一人が把握していないとできないことであり、プランを意識しながら支援を行っている証しでもある。とても素晴らしいと思う。今後も継続してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄表や健康チェック表を利用して、日々の体調の把握に努め、ケアに反映させている。自分以外が記入した介護記録にも目を通し、何があったかを共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に出来る手仕事をお願いしたり、季節の行事を通して色々なサービスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物の際には、行きたいお店に行き援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取り、必要な時は総合病院への受診を行っている。	協力病院より2週間に1回往診がある。毎週3ユニットのどこかに往診にきており、いつでも医師に相談ができる。看護師も毎日1人は出勤している体制が整えられている。利用者が入院した場合は看護師がたびたび面会に行くことで、どういった状況にあるか等随時把握し、退院時には適切な対応ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設の看護職員に相談したり、かかりつけ医の看護師に電話にて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には、定期的にスタッフが訪問し、入院先の看護師、ソーシャルワーカーと本人の現状等、情報交換や退院時期についてや退院後のことについての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い意思確認書を作成し、家族の思いや本人の様子を見ながら随時対応している。	本人、家族の希望により看取りまで対応しており、これまでに看取りの経験も多い。医師の判断により病院にて、家族、職員が集まり、終末期ケアの方針について話し合い、事業所にて職員に報告を行っている。食事量が少なくなったらプリンやジュースなど本人が食べられる物を考えたり、家族に対して頻りに連絡し状況を伝えるなど対応している。医師の協力も大きい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時にはその都度、対応が適切であったか検討し、その後の対応に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全管理委員会を設置。委員会中心に入居者も含めた避難訓練を年に2回開催。その前後には、災害時緊急時対応についての勉強会と避難訓練実施後の反省会を行っている。また、避難訓練を実施する時期に合わせて運営推進会議にて地域の方々の協力を呼びかけている。	年2回避難訓練を実施している。毎回、反省会を行っている。緊急時には連絡網にて地域の方に連絡が届き、協力が得られる体制を整えている。消防署とも避難経路や方法について相談し、夜間ならまずは防火扉の外まで誘導するなどの方針を決めている。今年度スプリンクラーの設置を行っている。	廊下に車椅子など物が置かれている所があり、気になった。緊急時にスムーズな移動ができるよう配慮を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇委員会が中心となり、勉強会を行っている。また、新人職員には基本から指導を行っている。利用者一人一人に合わせた声かけや呼び名についてその都度話し合いを行い、統一した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の希望を尋ね、自己決定のサポートを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールと居室を自由に行き来して頂き、レクリエーションを行う時は、強制するのではなく、本人の意思を確認する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	結髪の必要な方は、お手伝いしている。外出時はTPOに合わせた服装になるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は陶器の家庭的なものを使い、ご自分の箸・湯のみ・茶碗を使って頂く。盛り付けも、美味しく見えるように工夫し熱いものは熱いうちにお出しする。	栄養士が献立を作成し、栄養管理を行っている。洋食や和食等メニューに合った食器や湯飲み、ティーカップ等を使う事で雰囲気を楽しめるよう工夫している。時には気分転換を兼ね、施設前のうどん屋やファミレス、回転寿司等で外食し、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいような形態を工夫している。水分摂取量の少ない方は、お茶以外の飲み物の時に、飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った歯ブラシを選定し、毎食後口腔ケアを行う。入れ歯の仕上げ磨きは、スタッフが援助。 1/Wで歯科衛生士の訪問有。その時に口腔内の相談、アドバイスをもらいケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時に、オシメ対応の方はパンツで過ごせるように支援する。日中は、PTイレではなくトイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時トイレへの誘導を支援している。その成果もあり、失禁回数が減り、オシメ→リハビリパンツ→布パンツへと状況に合わせて変更している。現在、日中はオシメを使用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作り、排便のリズムを確認している。必要に応じて服薬にてコントロールを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番や、お湯の温度にも配慮している。入浴拒否のある方は、時間をずらしたり声掛けを工夫している。	その人の好みのお湯加減に合わせ、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否される方には無理強いをせず、時間をずらしたり、声かけを変えるなど工夫している。シャワー浴の設置もあり、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調節をこまめに行ったり、本人の希望に合わせている。自分で調節できる人にはリモコンを渡している。日中、昼寝をする方は、自由に居室で休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には薬を手渡しし、服薬者名・日付・朝夕を声に出して誤薬を防ぐ。飲み込みを確認する。飲みにくい場合は、ご飯にかけるなど工夫する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやお絞り巻き、洗濯物たたみをお願いしたり、食事前には献立を読んでいただき「いただきます」の声掛けをお願いする。買物に出かけた時には好きなものを買うように援助を行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買物、支払いの支援を行う。施設回りの掃除をしてくださる方も居られる。 季候の良い時期には散歩に出かける。また、地域貢献のためにおこなっている近隣の遊歩道の清掃活動の際、散歩がてら一緒に行くこともある。	施設前の花壇に季節の花を植え、利用者と一緒に水やりをしたり、駐車場を一緒に掃除するなど利用者に役割を持って頂き、外に行く機会を作っている。また、気候のいい時に遊歩道を散歩したり、本やおやつなど買い物に行っただけに喫茶店でコーヒーを飲むなどゆとりをもち対応している。他のユニットにお邪魔して気分転換をすることも多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際には、見て、実際手にとって、好きなものを選んでもらえるよう援助する。自分でお金の計算をしたい方は、計算を援助する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかける援助をする。手紙・葉書を出す方は、発送の手続きを援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品を季節ごとに掲示したり、壁には季節に合った壁画を掲示している。	ユニット毎に狭いながらも楽しい我が家といった雰囲気や少しゆったりとした雰囲気など違いがあり、面白い。フロアには花や観葉植物を飾ったり、利用者が作った季節毎の作品(訪問時には七夕の壁飾り)を掲示しており季節を感じることができる。	運営推進会議を行っているエレベーター前の広場などグループホーム以外の場所で活用できるスペースがある。集団体操やクラブ活動、お茶会など有効な活用方法を検討していただく事を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげれそうな場所に椅子やテーブルを置いたり、居室入り口に暖簾をつけて落ち着けるように工夫している。入居者同士が落ち着いて過ごせるように各々の席を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の引き出し・時計・筆筒・テレビ・布団など使い慣れたものを使って頂いている。家族写真や、好きな俳優のポスターを貼ったりしている。また、自分でつくった詩など居室に掲示している。	北側の部屋には窓がなく少し暗い感じだったが、今年度スプリンクラー設置と同時に天窓が取り付けられ、明るく居心地良く過ごすことができるよう改善されている。それぞれの部屋は形や雰囲気が全く違うため、入居前には必ず部屋を見てもらい、納得して頂くよう努めている。入居後は利用者が自分の部屋だと分かるよう馴染みの物を持ちこんだり、一緒に配置を考えるなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙を工夫したり、家族・本人の了解のもと、居室には本人の名前を書いて、分かりやすくしている。		